

「いるか座(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもたちに「いるか座」の話をする面白い。

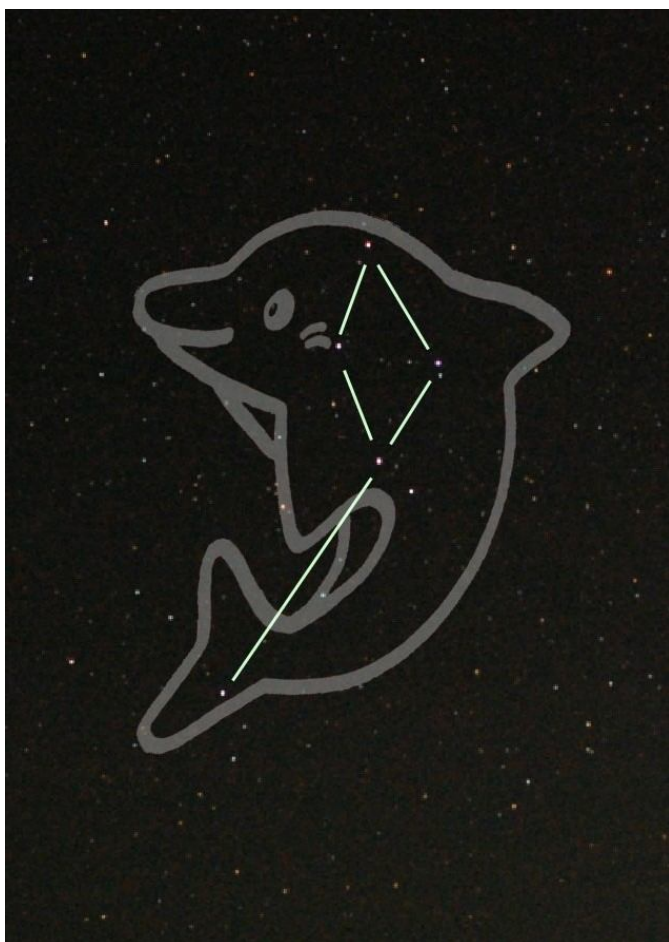
「えー、いるか座？知らない」

「いるか座なんてあるの？」

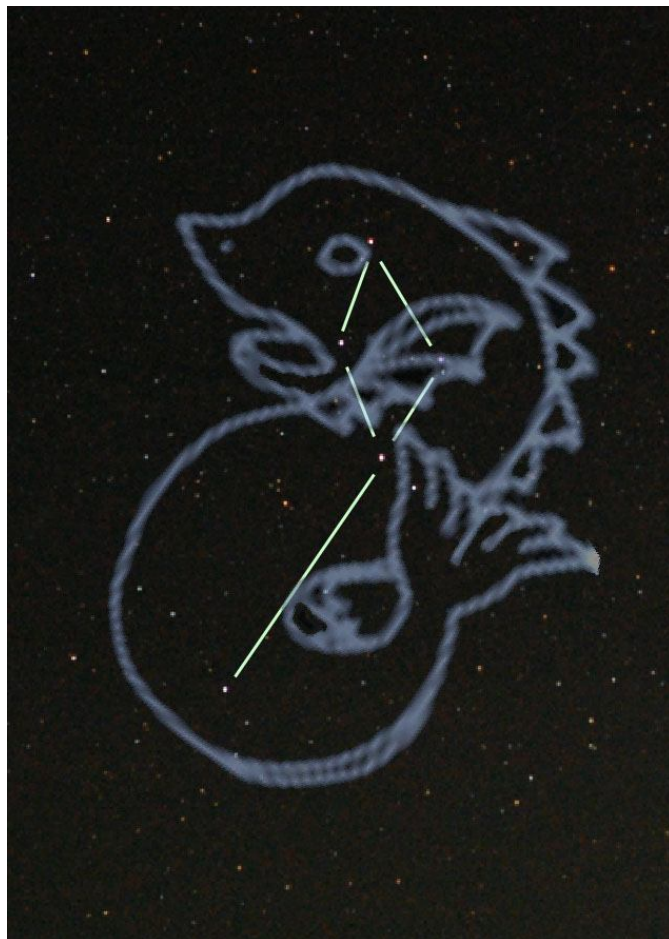
「でもかわいい星座だよ、きっと」

とこんな具合である。子どもたちに星座の写った「星野写真(せいやしゃしん)」を見せても、ほとんどの子どもは「初めて知った」という。

しかし「いるか座」の星の並びは、確かに「いるか」に見える。プロジェクターでホワイトボードに投影して、星座絵を描かせてみると、子どもたちはこんなイメージを思い浮かべるようだ。



私も小学生の時に、理科実験室にあった大きな星座早見盤で「いるか座」を見つけ、こんな星座絵を思い浮かべ記憶がある。しかし、実際の「いるか座」は少し---というよりも全然ちがう。神話では、船から身を投じた詩人を救ったイルカとされている。



これが一般的ないるか座の星座絵だ。正直なところ、全然かわいくない。子どもたちに見せても、「えー、ぜんぜんイルカに見えない」「かわいくなーい」「魚のおばけみたい」と、すこぶる評判が悪い。



それでも私は「いるか座」が好きだ。4等星ばかりなのに、形がはっきりしていて、自己主張しているように見える。クラスの子どもたちの中にも、「いるか座のような子ども」がいるような気がする。秋の夜更けには、西の空にいるか座が沈む。ひし形の4星を上、一番「いるか座らしい姿」になる一瞬だ。

